

「2023年度韓国・延世大学スプリングスクール派遣報告書」

京都大学薬学部2年 小立 都羽

私がこのプログラムに申し込もうと思った理由は、ざっくりした言い方になりますが、長期滞在することでしか得られない知見を得るためです。もちろん韓国語を話す能力をつけたいという思いもありましたが、それよりも時間がある学生の間ずっと日本にとどまっているのはもったいない、この目で世界の1部を見てきたい、という思いの方が強くありました。

このプログラムは、約3週間、韓国の三大名門大学の一つである延世大学の語学堂に通いながら、その他に韓国料理体験やkpopダンス体験なども受けられるプログラムになっています。学校があるのは月曜日から金曜日の午前だけで、土曜日と日曜日は休みになっています。私はこの土日や平日の午後を利用して明洞で買い物をしたり、ホテル近くの韓国料理屋で食事をしたりなど、様々な経験をしました。

このプログラムに参加して、私は世界の広さを実感しました。韓国は近い国なので日本と似ているのですが、異なる点も多かったです。例えば、日本の飲食店では、あまりサービスや店員との会話はありませんが、韓国の飲食店は、サービスとしてキムチや大根の漬物、コーラなどを無料で付けてくれたり、店員の方が「お姉さんたちどこから来たの??若いねえ」などと話しかけてくれるところが多かったです。これは、日本はあくまでお客さんと店員として、丁寧に接客をすることに重きを置きますが、韓国は初対面のお客さんであっても、知り合いのように面倒見よくフランクに接するという文化の違いから出てくるものなのかなと感じました。このような話は旅行に行った友達から聞いていましたが、実際に行ってみないと韓国の方のこのような温かさは実感出来ません。これぞ、異文化を知る、ということなのだなと感じました。自分と違う考え方や文化を持つ国を知ると、より物事に寛容になれるのではないかと思います。私は結構小さいことでも悩みがちなのですが、私の知らない世界がまだまだあるということを知れたので、それに比べると本当に小さいことであまり悩まなくていいのかなと感じました。人生に余裕が出た気がします。

そして何より、学校の授業では韓国語でないと通用しない環境に身を置いているため、必然的に韓国語は上達しました。渡航する前に学校で事前学習として韓国語の授業があったので、割と韓国語の知識は持っていると思っていたのですが、初めは、飛行機のアナウンスでさえ何一つ聞き取れませんでした。駅や街の看板のハングルも読むのに時間がかかっていました。しかし、全て韓国語で行われる授業を受けたり、韓国語でしか言葉が通用しない他国からの留学生の友達とお喋りをしたり、日本人の友達とも韓国語で会話チャレンジなどをしたりしているうちに耳や頭が韓国語に馴染んできて、最終日あたりには電車のアナウンスもほとんど聞き取ることも出来たし、お店で必要最低限の会話もかなりできるようになっていました。やはり言語を習得するには座学だけではなく、実際にその言語を使わざるを得ない環境に身を置いて実践を積むということが重要なのだなと痛感しました。

私は2年生の終わりにこのプログラムに参加しました。一番に思ったことはもっと私の知らない世界を見たいということです。私は学部的に学部生の時に留学はしづらいので大学院で留学するか、留学せずに旅行にたくさん行こうと思いました。

大学生は、社会人、高校生に比べて時間もたくさんある上に学びの機会もたくさんあります。それをうまく有効活用するかしないかは自分次第です。待っているだけではいい経験は降ってきません。自分で掴みに行くことが重要なのだなと感じました。

너도 한국에서 즐거운 경험을 해 볼래? 넓은 세계를 보러 가자!